

が安全である。支柱の高さ非常に大なる場合あり、軽度の屈曲にて避け得らるれば山嶺の縦面屈曲角の大なる地點にて屈折し得べく、其屈曲平面角は索條の縦面屈曲角の約八分の一を普通とし、三度乃至六度である。之れにて尙不足なる時は更に他の山頂に於て亦屈曲する、其結果山頂の高さを低下し隣接せる徑間の起伏を高め支柱の高さを減ずるのである支柱上の索受車の配置は索條の生命に重大なる關係ありて一哩に付き往復にて約八十個乃至百二十個の索受車を要するのが普通である水力工事用索道の如く短距離毎に中間停車場を設くる場合は往復にて百三十個乃至百八十

個の索受車を必要とする。索受車一個の受くる縦面屈曲角は其位置の索條の張力によりて異り、最大張力にて二度乃至三度最下部に於て四度乃至六度だから、支柱上にて前後の索條の二曲線の含む角度を索受車一個の受くる縦面屈曲角にて除したる数だけ索受車を装置すればよい。

索條の軌間は以前は原動索車の直徑と同一であつたが、支柱上で曲折出来る様になつてから線路内は普通九尺さして居る。長徑間で載荷索及空荷索のたるみ殆んど同一となる場合は風の爲め兩線接觸する事があるので其部分を十八尺とした例もある。(終)

\*

\*

\*

## 日本最初のパーキング・ビルディング

日本最初のガラーヂが東京丸の内に出来た。此は有料の自動車駐車場建物である。最近米國の道路を研究して歸朝したる東京市役所の江守技師の談による。

アメリカの自動車数は昨年末に約二千四百五十萬臺で、一家族一臺見當になつてをる。此等の自動車は何萬もなく大都市のビジネスセンターに集まつて來て駐車する時は路面は大變な混雑をする、それで下町の空地を利用して有料の自動車駐車場、即ち Parking Space が出来、又立派な鐵筋混凝土建の Parking building を造つて營業するものも多數に出来た。

デトロイト市では一昨年自動車駐車問題の大調査をした結果、路傍駐車は三十分乃至一時間のものが最も多く、全駐車 of 90% に達してゐるが、結論として市營の Parking building を各所に建設することに、目下工事中の事である。

以上は米國の現状であるが、我が丸の内ガラーヂは即ち其有料の Parking building の一種である。

### 佐野博士清水組入社

建築工學の權威として、かつて東京市建築局長たり、帝都復興事業、その他全國建築事業のあらゆる方面に關與しつゝあつた、現建築學會長、帝大教授佐野利器博士は、今回帝大及東京工業大學教授の職を辭し、合資會社清水組に副社長として入社せられた由。